

『のら』は魚を取りに川にやって来た。しかし川辺で魚を追い掛け回していたが、なかなか捕まえられず、疲れきってしまっていた。『のら』はキョロキョロと周りを見渡し始めた。草むらの少し盛り上がった部分を見つけ、その場所へトコトコと歩いて行った。その盛り上がった部分を触ってみると、フカフカで気持ちがいい。『のら』はニコツとして、その上に登り始めた。そして、その上で周りを見回した。川の間には、綺麗な花畑が見えた。『のら』はじつとはそれを見ていたが、やがてポカポカして眠くなってきた。

暫らくして『のら』は、手足が冷たいことに気が付き目を覚ました。そして手を見て驚いた。水に浸かっているではないか。『のら』は起き上がり更に驚いた。そこはなんと川の真ん中であつたのだ。『のら』はキョロキョロ見回したが、岸から離れていて戻れそうもない。しかし何故川の真ん中にきてしまったのだろうか。途方に暮れていると、『のら』は突然水の中に沈んでしまった。バタバタと手足をさせ、「ミャーミャー」と叫んだ。そう言えば『のら』は、泳げなかつたのである。『のら』の体は徐々に沈んで行く。このまま駄目かと思つた瞬間、目の前に灰色の巨大な壁が水の中から現れた。そして『のら』の首筋を掴み上げ、ゆっくりと川の中を歩き始めた。岸に着くとその生き物は『のら』を見て、「かぴ」と言いながら腹のあたりを叩いた。

『マナ』はその晩疲れきって仕事から帰ってきた。家の扉を開け中に入ろうとしたが、そこには大きな灰色の壁があり、家の外に弾き飛ばされてしまった。家の中からは「かぴ」と言つ声か聞こえた。そして『のら』の「カッピー」と言つ声も。

